

懐かしい未来新聞

発行：甲賀市
地域共生社会推進課
連絡先 内線1356
0748-69-2155



2023
3/17

岩永市長、地域共生社会を明言

甲賀市地域共生社会推進本部会議の本部長である岩永市長を講師に、全職員を対象とした「地域共生社会の実現」に向けた研修会を開催しました。期間限定今年6月末で動画配信もしています。



岩永市長



研修動画
2023年6月末まで

強くなることはないです
弱い自分に苦しみむことが大事なんです
人間はもともと弱い生き物なんです
それなのに
心の苦しみから逃れようとして強くなろうとする
強くなるということは鈍くなることなんです
痛みに鈍感になるということなんです
自分の痛みに鈍感になると人の痛みにも鈍感になる
自分が強いと錯覚した人間は他人を攻撃する
痛みに鈍感になり優しさを失う
いいんですよ
弱いまままで
自分の弱さと向き合いそれを大事になさい
人間は弱いまままでいいんです
いつまでも
弱いものが手を取り合い
生きていく社会こそが素晴らしい

いかりや長介氏
の言葉よのり

全員参加のまじり

（次からは市長の言葉です。）
「地域共生社会の実現」と言っても容易ではありません。以下の4点の姿勢を持ちながら、あきらめることなく取り組むことが重要です。
①分野・属性を問わず受け止める。
②制度の隙間にある困りごとを受け止める。
③届かぬSOSに手を伸ばしキヤッチする。
④行政は万能ではないこと認識しながら、地域や市民と協働する。
そのためには、民生委員、自治振興会、近隣住民、ボランティア、店舗、友人：オール甲賀での取り組みによって、地域で孤立させないことを優先課題としましょう。行政だけでやっていくのは、地域力は上がりません。これまで「受け手」であった者が

おじゃまします。こどもの居場所

ばあちゃんち

地域課題（学校に行きづらい子どもがいる）と、興味・関心（子どもの居場所を作りたい）から始まった活動が「こどもの居場所 ばあちゃんち」月に2回の開催で、昼食をはさみながら、ばあちゃんちとのゆっくりしたおしゃべり時間を大切にされています。



所狭しと並ぶ田舎料理
夏休みに遊びに行ったらばあちゃんちを思い出します。



なんでも受け止めてくれて
うなはばあちゃんち

「ここに来るようになってから、笑顔や言葉が増えてきた子がいるのがうれしいわ」と、ばあちゃんちが話されていました。
愛情と優しさが詰まったお料理、居心地が良く、今や大人たちの癒しの場にもなっています。
ぜひ「ばあちゃんち」に足を運んでみてくださいね。
【場所】水口町本町3-1-18
【問い合わせ】080-2403-3139
代表 大原さん

「支え手」として活躍していただけるのではないのでしょうか。
問題の解決がゴールではなく、つながり続ける「伴走支援が求められています。」
「受け手」と「支え手」という垣根を越えて、社会に参加しづらい人に、参加してもらえたらいいなと思います。」
（以上 市長の言葉）
最後に、ザ・ドリフターズのリーダーいかりや長介氏の言葉「強くなる必要はない」「弱さ」も社会の力になる（上記参照）を引用し、市長自らが「私が責任を持ちますから、自分の周囲から小さい素敵な集団、共生社会を創ってください」と発信をされ、聴講した職員からは、「感激した」「力強さを感じた」「背中を押された感じ」との声が寄せられていました。

聴講した職員の声（抜粋です。）

- ・行政マンに求められているのは、市民とともにまちづくりを進める合意の力、支え合い、チーム力だと感じました。
- ・互いに助け合える甲賀市にするために、自分自身にできることは何かを考えながら職務を遂行したいです。
- ・所属にとらわれず、庁内で困りごとを共有し、自分にできる事を考えていきたい。

上記の研修動画を視聴したら、感想を聞かせてください。





続・うまく行きすぎた重層物語

前号に引き続き
重層支援のキーワード
をマスターしよう

甲賀市の市営住宅で暮らす家族の物語です。まずは家族の紹介です。

【登場人物】

- ・ **正子(曾祖母)** … 80歳。足腰はしっかりしていますが、最近になって物忘れがでてきました。
- ・ **昭一(祖父)** … 50歳。人間関係がうまくいかず仕事が長く続きません。現在は無職です。
- ・ **成実(母)** … 28歳。中学卒業後に家出し、最近、子供を連れて実家に戻ってきました。
- ・ **令也(子)** … 11歳。小学校6年生。5年生から不登校状態で、誰とも会いたがりません。



【これまでのお話】

昭一の勤め先が見つからず、成実は子育てをせず遊びまわり、令也の1年以上にもわたる不登校が続いています。正子の年金だけでは、一家の生活が立ち行かなくなり、正子と昭一は市役所生活支援課に出向いて「生活費に困っている」と相談しました。

そこで、生活支援課の職員は、相談を受け止めたうえで、**多機関協働事業者**である甲賀市社会福祉協議会に相談し、関係機関で**支援会議**をし、**伴走支援**をすることになりました。

重層的支援会議

初回の重層的支援会議では、令也の心理的支援や生活基盤の保障はもちろんのことながら、成実と令也が社会や他者とのつながり、自己肯定感を取り戻せる機会はないかと話し合われました。その中で、他市でeスポーツの大会が開催されることや、成実が好きなスイーツや雑貨の並ぶマルシェが、近日、市内で開催される情報を共有しました。社協職員とボランティアは、成実と令也が活躍でき、何らかの役割を担える契機になるのではないかと期待して、「eスポーツの大会とマルシェに行かないか」と話を持ち掛けました。調整役の熱意に根負けするようなかたちで、2人とも各々のイベントに参加することを決めました。

参加支援事業

eスポーツの大会に参加した令也は、得意のゲームで準優勝を勝ち取り、成実やボランティア、そして、学校のスクールカウンセラーから「すごい！」と褒められて、照れくさそうに表彰状を受けとり記念撮影をしました。

後日、マルシェに出かけた成実は、おいしそうなお金をお世話になっている皆に買おうとしましたが、お金が足りずにその場で悩んでいるうちに、スタッフと世間話になり「よかったら手伝いに来てね」と声をかけられ、来月のマルシェではスタッフの一員として参加する約束をしました。

令也は、eスポーツを通じて、小学校のスクールカウンセラーとも話せるようになり、週に3回保健室に登校するようになりました。

また、成実も朝からお酒を飲むことがなくなり、就労にはつながっていませんが、スコーン店の手伝いを続け、今ではマルシェの実行委員を務めています。

先日、訪問した市営住宅の担当者に、「最近、成実や令也もワシより先に起きるとで」と昭一が嬉しそうに話しかけてきたそうです。

はじめて市役所の窓口を訪ねて半年が過ぎ、正子は介護予防教室に通うようになり、昭一の就労先もちゃんと見つかりました。また、成実や令也の暮らしにも改善の兆しが見られたため、支援の経過と成果を振り返る目的で、二回目の重層的支援会議を開催しました。

第二回重層的支援会議

検討の場では、学校や職場以外の昼間の居場所づくりは、令也や成実だけの課題ではなく、地域課題ではないかと話し合われ、学校に登校できない児童や、うまく社会に馴染むことのできない大人(若者)の居場所づくりの有り様を話し合う会議へと発展しました。

その結果、甲賀100歳大学の卒業生とスクールカウンセラーが協働して、学校以外の昼間の居場所づくりを担ってもらうこと、そして、宿場町周辺にある複数の空き家を活用して、開業したい人が多様にチャレンジできる官民協働事業(歩いて楽しむまち事業)が始まることになりました。

地域づくり事業

こうして、甲賀市は人と人、人と資源がつながり、一人ひとりが生きがいや役割をもち、互いを尊重しながら暮らしていくことのできるまちとなりました。もちろん、甲賀市でeスポーツの大会が開催されるようになったことは言うまでもありません。

地域共生社会の実現へ

この物語はフィクションであり、実在の人物・団体とは一切関係がありません。しかしながら、このような物語を羅針盤として、地域共生社会の実現をめざすものです。



(文責 中井浩喜)